

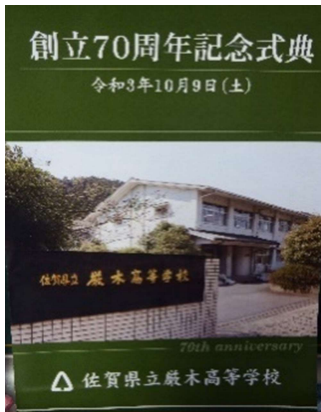
# 夢は叶う！夢が叶う！佐賀県立厳木高等学校 校長室の窓から

## 「地域と歩んだ70年間」

令和3年10月15日



### 創立70周年記念式典を開催しました！



去る、10月9日（土）、佐賀県知事山口祥義様、佐賀県教育委員会教育長落合裕二様を始め、日頃から本校を見守り支えていただいている来賓の皆様にご臨席を賜り、厳粛な雰囲気の中佐賀県立厳木高等学校創立70周年記念式典を開催しました。

式典に先立ち、唐津市の農業経営者ラマ・カンチャ様に「夢を力に～ネパールと日本の未来の農業のために～」と題して、記念講演をいただきました。来日以来これまでの御苦労話や将来の夢などをお聞かせいただき、「失敗は成功の柱」、「悩みは一人で抱え込まない」、「下手でも挑戦する。挑戦が変化を起こし、そして幸せになれる。」など心温まる、そして力強いメッセージを生徒たちに送っていただきました。

本来であれば、厳木高校と御縁の深い同窓生や旧職員等多くの皆様方とともに幸せな時間を過ごし、本校の70周年をお祝いさせていただいたかったのですが、コロナ禍のため在校生と現職員を中心とした小規模な式典開催とさせていただきました。その中で、事前の準備から記念講演や記念式典の司会進行や謝辞など様々な場面で本校生徒たちが母校の70周年という大きな節目を支える等、主体的に関わってくれました。山口知事様や落合教育長様からも「よく頑張った。」とお褒めのお言葉をいただきました。

式典前日は、10月とは思えない暑さでしたが、全校生徒職員総出で、大掃除や会場準備に取り組んでくれました。

残念ながら、厳木高校の1万人を超える先輩方に、直接お届けすることはできませんでしたが、きっと喜んでいただいていると思います。

生徒、職員の皆さん、お疲れ様でした。そして、ありがとうございました。



事務長を始め、事務室の皆さんも総出で準備に当たってもらいました。

足拭きマットについたしつこいゴミもテープで丁寧に取り除いてくれました。



記念講演の演題と式典の式次第は書道部の生徒たちが心を込めて書いてくれました。

体育館内の会場準備は運動部の生徒たちがテキパキと担当してくれました。



## 式 辞

厳木の郷をわたる爽やかな朝の風に、秋の深まりを感じる今日の佳き日、佐賀県知事 山口祥義（よしのり）様、佐賀県教育委員会教育長 落合裕二（ゆうじ）様を始め、日頃から本校を温かく見守り、支えていただいております来賓の皆様方に御臨席を賜り、本日、創立七十周年式典を厳粛な中に挙行し本校教育の変遷を偲び、更なる発展を祝うことができますことは、大きな誇りであり、また喜びでもあります。



さて、厳木高校は創立七十周年を迎えました。本校の七十年にわたる歴史は、昭和二十六年、この緑豊かな厳木の郷に佐賀県立唐津高等学校厳木分校として誕生した時に始まります。当時は修業年限4年、普通科、商業科、家庭科の三科を持つ昼間定時制高校として、厳木中学校の校舎内に併設される形での開校でした。

その後、昭和三十四年から翌年にかけて現在のこの地に木造の独立校舎が建設されました。その資金や資材、用地の調達など、当時の厳木町役場や地元有志の皆様方の熱い御支援により昭和三十六年についに独立校として厳木高校が誕生しました。翌年、定時制から全日制へと変更されるなど幾多の変遷がありました。

時を経て、平成三十年には、発達障害の特性や不登校経験を持つ生徒、あるいは中途退学経験を持つ生徒たちを受け入れる全県募集枠を設置する新厳木高校として生まれ変わりました。

現在、生徒たちはこの厳木の郷で、開校当時と変わらない地域の皆様方の温かな御支援と御協力をいただき、日々学びを重ねております。教室での座学だけでなく、環境芸術の森、学校林、学校農園、介護老人施設、こども園などでの心豊かな交流と体験活動をとおして、コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力、協調性や奉仕の精神など将来社会で活躍するために求められる資質を育てております。

これまで、定時制、全日制を合わせ1万人を越す卒業生を送り出し、その卒業生は唐津市、佐賀県は言うに及ばず、全国各地で活躍を続けています。

「夢は叶う！夢が叶う」をスローガンとし、多様な体験活動と多彩な選択科目をとおした深い学びにより「地域や社会に貢献できる心豊かな人材を育成する」ことを学校教育目標として掲げております。創立七十周年に当たり、これらを継続しつつ、他者に対する「思いやり」の心を持ち社会で活躍できる人材を育成し続けるため、今後またゆまぬ努力を重ねて参りたいと思いません。

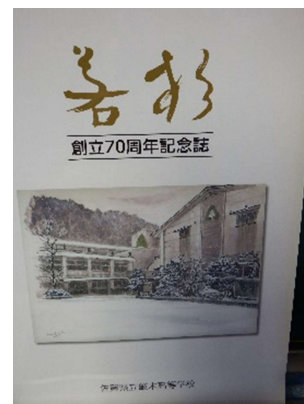
昨年から全世界に急激に感染が拡大した新型コロナウイルスにより、学校生活は一変しました。修学旅行、部活動の各種大会やコンテスト、入学式や卒業式など、学校生活のありとあらゆる活動が制限を受けましたが、学校や家庭において可能な限りの感染防止対策を行い、日々の学習活動をできるだけ通常の形で展開する等、生徒たちの学びを止めないことを目指しています。

本日の創立七十周年記念行事においても多くの生徒たちが様々な場面で自らの母校の大きな節目の行事に主体的に関わる経験をすることで更なる成長を遂げていることと確信しております。本校の校歌である「緑の山脈（やまなみ）」や校章にも取り上げられている「わかすぎ」の木が常に緑をたたえ若さを失わないように、本校の生徒たちが卒業後も、いつまでも成長を続けてくれることを願っております。

最後になりましたが、これまで本校の発展のためにご尽力いただきました多くの方々のご功績を讃え、深く敬意と感謝の念を表しますとともに、これからも本校の益々の発展のため、御指導、御支援を賜りますようお願い申し上げます、式辞といたします。

令和3年10月9日 佐賀県立厳木高等学校 校長 坂本 康晴

「若杉」創立70周年記念誌



「クロック」創立70周年記念品



【校長のつぶやき】創立70周年を記念し、同窓会の皆様から「演劇鑑賞（CATS）費用」などを寄贈していただきました。コロナ禍において本物の芸術に触れる機会の少ない生徒たちにとって大変貴重な機会を提供していただき本当にありがとうございます。また、山口知事様のご祝辞の中で「『サガンスギ』を厳木高校に植えたい！在校生のみんなが10年後、あるいは20年、30年後にまた厳木高校に集まって、あの時にみんなで植えた杉だよねって、佐賀県が全国に誇るこの素晴らしい杉をきっかけに旧交を温めて欲しい。」と有難いお言葉をいただきました。在校生一人ひとりが母校の大きな節目に主体的に関わることで、人生における次の一步を踏み出す意義ある創立70周年となりました。今後の一層の成長と活躍を期待しています。